

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.58 - 2013年10月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サレジオ会員の皆さん、 サレジオ・ミッションの 友人の皆さん!

宣教の月、10月を迎え、皆さんに心からのごあいさつを申し上げます。36人の新宣教師とサレジオ会の宣教師召命のため、9月中に皆さんがささげてくださったすべてのお祈りを感謝します。

2008年から2014年にかけての6年間、200人以上の新しい宣教師と共に歩んで来ました。絶えず呼びかけを新たにしてくださる主に感謝します! サレジオの宣教師の召命は本当に素晴らしいものです! それは私たちのカリスマの最良の表現です。私たちの霊性が全教会に差し出されるのです! この「サレジオ会召命の中から生まれる」素晴らしい召命を識別する歩みを、多くの会員と共にすることのできた恵みを主に感謝します! アルバニア、ロシア、ミャンマー、マダガスカル、トーゴ、ウクライナ、キューバ、中国からの最初の若いサレジオ会員が、宣教への召し出しに良く応えることができるように共に歩むことは、何と素晴らしいことでしょう! 若い管区からの最初の宣教師たちは、主の私たちへの信頼の証しです!

「南地球の世界」の信仰のみずみずしさは、信仰という贈りものに驚くようにと私たち皆を招いています!

皆さんが2013年世界宣教の日を爽やかにすごされますようお祈りしています。宣教の日が、私たちの信仰に活力を取り戻させ、イエス・キリストがまだ知られていない、愛されていない「存在のあらゆる地平」へと教会が出かけて行くための一助となりますように。

Vedran Clement
宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

教会はNGOではなく、 キリストを告げる共同体です!

福音宣教の働きはよく障害にぶつかります。それは外的な障害だけでなく、教会共同体の中から来る障害でもあります。時には、すべての人にキリストのメッセージを告げ、同時代の人々がキリストと出会うように助ける熱意、喜び、勇気、希望が私たちに欠けていることがあります。時には、福音の真理を語ることは自由の侵害であるといまだに思われていることがあります。……私たちの時代に、福音のすばらしさを告げ知らせ、あかしすること、そして教会自身の中からそうすることが緊急に必要です。……教会は、もういちど繰り返しますが、救援組織ではなく、何かの事業やNGOでもありません。聖霊に活かされた人々の共同体です。イエス・キリストとの出会いの驚きを生きてきた、そして生きている人々、そしてこの深い喜びの体験と主が私たちにくださった救いのメッセージを分かち合いたいと望む人々の共同体です!

(2013年世界宣教の日教皇メッセージより<http://tinyurl.com/k8krv77>参照)



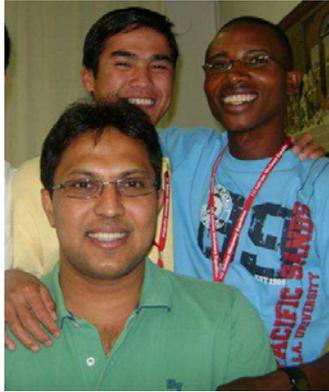
アフリカへの宣教師求む(第145回宣教派遣)

管区、国	必要な言語	環境と必要な資質
AET エチオピア/ガンベッラ使徒座代牧区	英語/地元の言葉	使徒座代牧区: サレジオ会に委託されている。人材が少ない。第一次福音宣教、教会を根づかせる機会。
FRB モロッコ	フランス語、アラビア語	モロッコで唯一の共同体、学校-職業訓練センター、小教区、小さな共同体
ISI チュニジア	フランス語、アラビア語	チュニジアで唯一の共同体、小学校とオラトリオ、小さな共同体

私

は16歳のときに志願院に入りました。宣教師たちと過ごした日々はすばらしいものでした。司祭になる望みは成長し、それと同時に、特に私

たちが読んでいた宣教ニュースを通して、宣教師になることへの関心も大きくなりました。



スリランカのネゴンボの修道院で実地課程を過ごしていた最初の年、私は不思議な経験をしました。当時、スリランカはチェンナイ管区の委任統治区でした。ある夜、霊的読書の時間に読むために、院長が管区長の回状をくれました。管区長はその手紙で、パプアニューギニアへの宣教を志願する人を総長が募っていることに触れていました。その手紙を読みかけながら、スリランカで働く宣教師、財務担当の神父様に向かって私は言いました。「神父様、私たちも行きましょうか。どう思いますか。」その神父さまは笑顔で答えました。「いいんじゃない。行きましょう」。同じ日、私は長上たちに電話をし、宣教師に志願したいと話しました。そのときから宣教召命の種が私のうちに根を下ろし始めたと思います。私が宣教師になることを神が望んでおられると、その時わかったのです。私はソロモン諸島に送られました。ソロモンは今、パプアニューギニア委任統治区の一部になっています。

「スリランカにも宣教師が必要なのに、なぜ海外に行くの」と尋ねる人もいます。たしかにスリランカはサレジオ会事業の成長を力づけるために宣教師を必要としています。しかし、スリランカのサレジオ会は1956年に宣教師たちが来てくれたおかげで、特にチェンナイ管区のフランス人会員アンリ・レムリー神父らのおかげで始まったことを、決して忘れてはいけません。管区長ベンジャミン・プトタ神父に宣教地へ行きたいと伝えた日のことを、今も思い出します。管区長は即座に答えました。「はい、もちろん。私たちの会員の数は少ないけど、それが神のみ旨なら、たくさんの召命を送って祝福してください。私たちは与えることによって受けるのだから！」たしかにスリランカは神に祝福されました。今、準管区になっています。

私は宣教師になって本当に幸せです。日々の聖体祭儀の中で神のみ言葉を分かち合い、神学校でいろいろな科目を教え、共同体の日常生活に参加することは、自分の召命を人々と分かち合う豊かな機会になります。また、異なる文化の人々と暮らし、関係を築く機会を与えられ、その人々の愛情と親しさを体験することができます。大切なのは、人々の目を引く大きなことをすることではなく、自分の人生における神のみ旨にいつも心を開いていることなのだ、私はわかったのです。



スリランカ出身、ソロモン諸島の宣教師
スリマル・プリヤンガ・シルヴァ・ガジャシナゲ神父



東アフリカ管区長ジャンニ・ロランディ神父へのインタビュー(英語)
<http://vimeo.com/74915948>



サレジオ会の宣教の意向

アフリカ地域

喜びにあふれ、若者のカテケジスと求道の歩みに献身するドン・ボスコのサレジオ会員によって、アフリカの若者の信仰の旅が充実したものとされますように。サレジオ会員がその旅を共に歩むものとなりますように。



アフリカの信徒カテキスタ、み言葉の勇氣ある伝え手の実り豊かな伝統は、私たち-ドン・ボスコのサレジオ会員に結ばれています。私たちは「要理の授業」(ドン・ボスコの言葉、MBIX61)から生まれたのですから。アフリカにおける神学養成のための、ルブンバシ(コンゴ民主共和国)、ナイロビ(ケニア)、ヤウンデ(カメルーン)の3つのサレジオ会共同体は、この生き生きとした、神の光に照らされたカテキズムの意識を、アフリカの若いサレジオ会員、司祭職への志願者たちの心に植えつけようと努力しています。